

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.237

■ デジタルものづくり対応支援事業
静岡大学の学部生による地域中小企業(会員限定)での
インターンシップ事業「2023年度 成果報告会」

次世代自動車センター浜松では、中小企業のデジタル人材確保を目的とした静岡大学の学生による、ものづくり中小企業でのインターンシップ活動を行っています。

2023年度は、受入企業4社に5名の学生が参加し、2月26日から3月15日の期間で、それぞれ5日間のインターンシップの実習を実施しました。

今回、インターンシップ事業の成果を確認し関係機関において成果を共有するため、受入企業及び参加学生の皆様にご参集いただき、当センターの望月センター長からの成果報告と実習を指導した担当者様と参加学生の皆様からコメントをいただく、成果報告会を開催しました。

■ 日 時 : 令和6年4月25日(木) 10時15分~11時30分

■ 場 所 : 静岡大学浜松キャンパス

■ 参加者 : 静岡大学・受入企業4社/学生5名・大学関係者2名・受入企業8名
 <開会> <ご挨拶: 静岡大学 早川教授>



<センターからの成果報告>



【受入企業・参加学生からの報告】
 <㈱コーリツ 様>



<浜名部品工業㈱ 様>



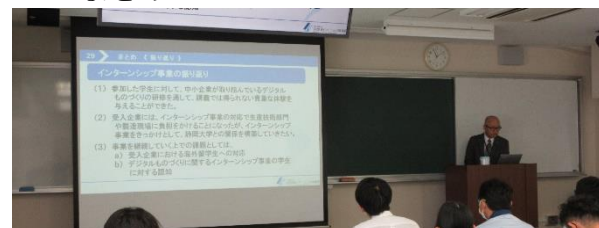
<大宝浜松㈱ 様>



<㈱ベルソニカ 様>



<まとめ>



【参加者の声】

<受入企業>

- ・CADによる図面描写から加工・測定までの一貫した実体験をしてもらうことができた。
- ・中小企業としての企業マインドを理解してもらうことができた。
- ・積極的な質問や論理的な理解をする姿勢を通して、学生の学習意欲を感じた。
- ・当社の製品・技術を知ってもらえた。
- ・学生と触れ合うことによる社員のスキルアップ（教育・気づき）を図ることができた。
- ・中小企業の存在価値を知ってもらえた。
- ・実習内容が満足してもらえるか不安だったが、積極的に実習を受けてもらえた。
- ・学生に意欲と好奇心があり、学んだことを今後の活動に活かしてほしい。
- ・スポット溶接について解析と実物の両方を体験してもらい、理解を深めてもらえた。
- ・教える立場になることで、よい学び直しの機会となった。
- ・CAE解析の結果を評価するためには実際の金型の動作を知ることの重要性や、溶接CAEによる溶接条件の設定を通してデジタルものづくりを体感してもらえた。

<参加学生>

- ・普段の授業では学ぶことのできない経験をすることができた。
- ・今回の体験が大学の講義を受講する時や、将来にも役立つ重要なスキルを磨くことができた。
- ・3DCAD（NX）と大学で使用したCADとの共通点や相違点がわかった。
- ・3D測定器や3Dスキャナーに触れることができた。
- ・3Dプリンタの原理と使用方法について学べた。
- ・NCプログラムについて学ぶことができた。
- ・安全教育は、物の持ち上げ方など細かいところまで徹底されていることがわかった。
- ・樹脂成形における不良の改善方法について聞くことができた。
- ・解析は便利だが、完全に樹脂成形を再現できないため、解析だけで評価できないことがわかった。
- ・射出成形についての講義や工場見学を通して学ぶことができ、製品ができるまでの苦勞がわかった。
- ・中小企業ならではの話など、今後活かせる話を聞くことができ、貴重な体験ができた。
- ・プレス加工のシミュレーションによる再現の難しさと、シミュレーションの重要性がわかった。
- ・スポット溶接やプロジェクション溶接など教科書に載っていないことが実際に見ることができた。
- ・スポット溶接のシミュレーションでは、実際に実験を行なったので、シミュレーションの大切さがわかった。
- ・実際に見て、溶接やプレス加工について教えてもらったのは、有意義で大変貴重な時間になった。